2026年11月11日

各　位

会社名　株式会社カーリット
（URL：https://www.carlit.co.jp）
代表者名　代表取締役兼社長執行役員　金子 洋文
（コード番号 4275　東証プライム）
問合せ先　経営企画部 広報・IR推進室長　山本 孟
（ＴＥＬ：０３-６８９３-７０６０）

2027年３月期第２四半期（中間期）決算補足説明資料のお知らせ

当社は、2026年11月11日公表の2027年３月期第２四半期（中間期）決算短信［日本基準］(連結)における決算補足説明資料について、別紙のとおりお知らせいたします。

［別紙概要］

１．連結経営成績

２．連結営業利益 対前年増減内訳

３．セグメント別 決算概要

４．化学品セグメント 分野別（サブセグメント）の状況

５．基盤領域セグメントの状況

以　上

信 頼 と 限 り な き 挑 戦

Carlit

2027年３月期 第２四半期（中間期）
決算補足説明資料

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

連結経営成績

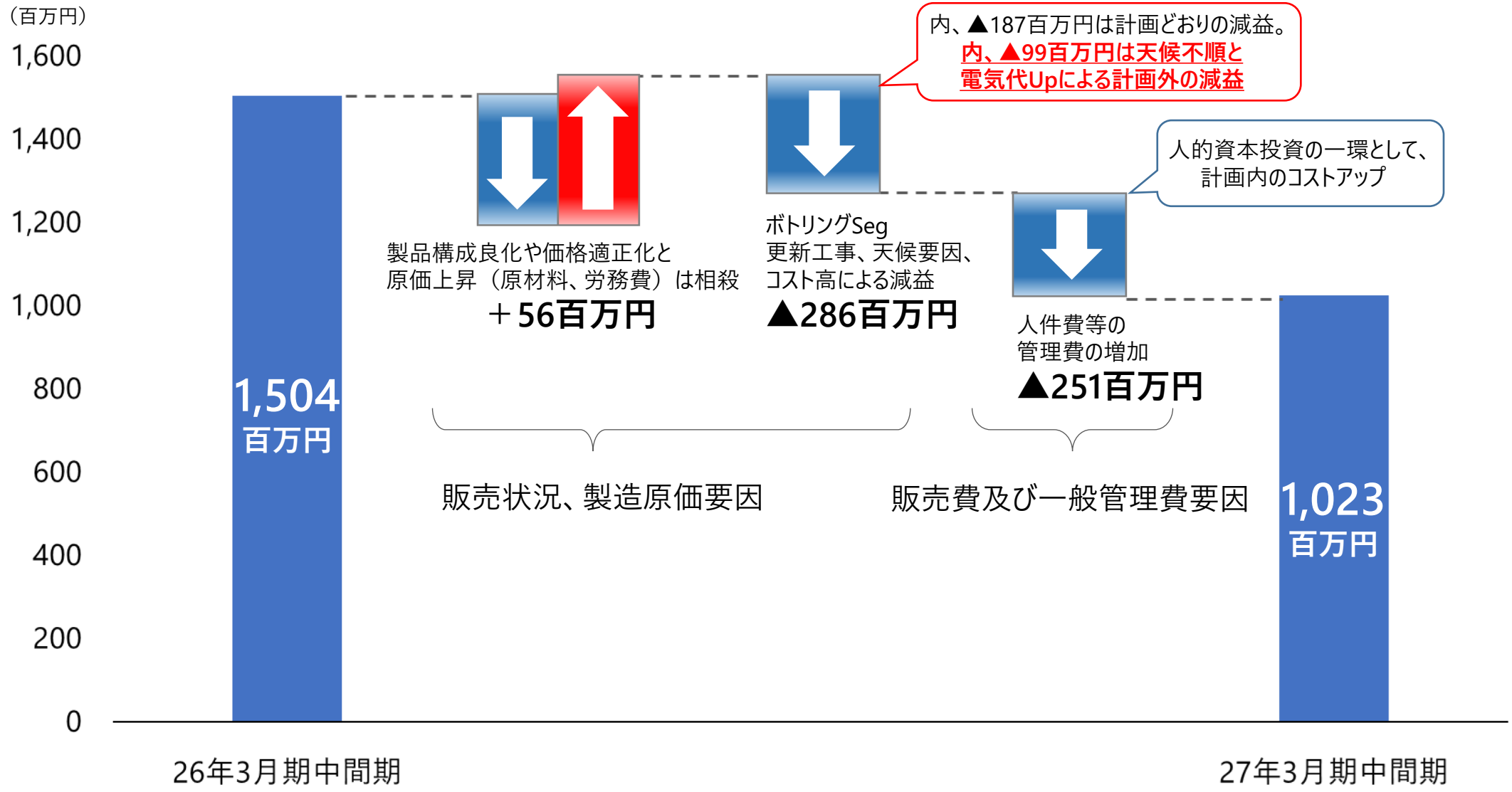
信頼と限りなき挑戦 Carlit

（百万円）	2026年3月期中間期 実　績	**2027年3月期中間期 実　績**	増減額	増減率
売上高	**17,763**	**17,452**	**▲311**	**▲1.8%**
売上原価	13,304	13,222	▲81	▲0.6%
売上総利益	**4,459**	**4,229**	**▲230**	**▲5.2%**
販売費および一般管理費	2,954	3,205	+250	+8.5%
営業利益	**1,504**	**1,023**	**▲480**	**▲32.0%**
経常利益	**1,657**	**1,145**	**▲512**	**▲30.9%**
親会社株主に帰属する純利益	**1,149**	**1,566**	**+417**	**+36.3%**
期末配当予想（円/株）	42	42		

特別利益	**投資有価証券売却益**	**1,140百万円**
	関係会社株式売却益	88百万円
特別損失	固定資産除却損	16百万円

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

連結営業利益 対前年増減内訳



©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

セグメント別 決算概要

信 頼 と 限 り な き 挑 戦

Carlit

（百万円）	中間期売上高			中間期営業利益		
	実績	対前期比増減率	対通期予想進捗率	実績	対前期比増減率	対通期予想進捗率
化学品	11,049	＋3.5%	46.0%	651	▲24.8%	31.0%
ボトリング	1,465	▲31.0%	40.7%	▲359	（▲352） 対前期比数値	（▲99） 対計画比数値
金属加工	3,738	▲0.9%	50.5%	335	▲10.1%	54.0%
エンジニアリングS	1,856	▲27.4%	32.0%	334	▲27.2%	51.4%
報告事業部門計	18,110	▲5.3%	44.4%	963	▲40.8%	28.6%
連結合計	17,452	▲1.8%	46.9%	1,023	▲32.0%	32.0%

化学品Segは計画どおり増収。
生産コストについては販売で相殺できているものの、販管費の増加を吸収できていない状況。適正価格交渉等の取り組みによる改善を継続。

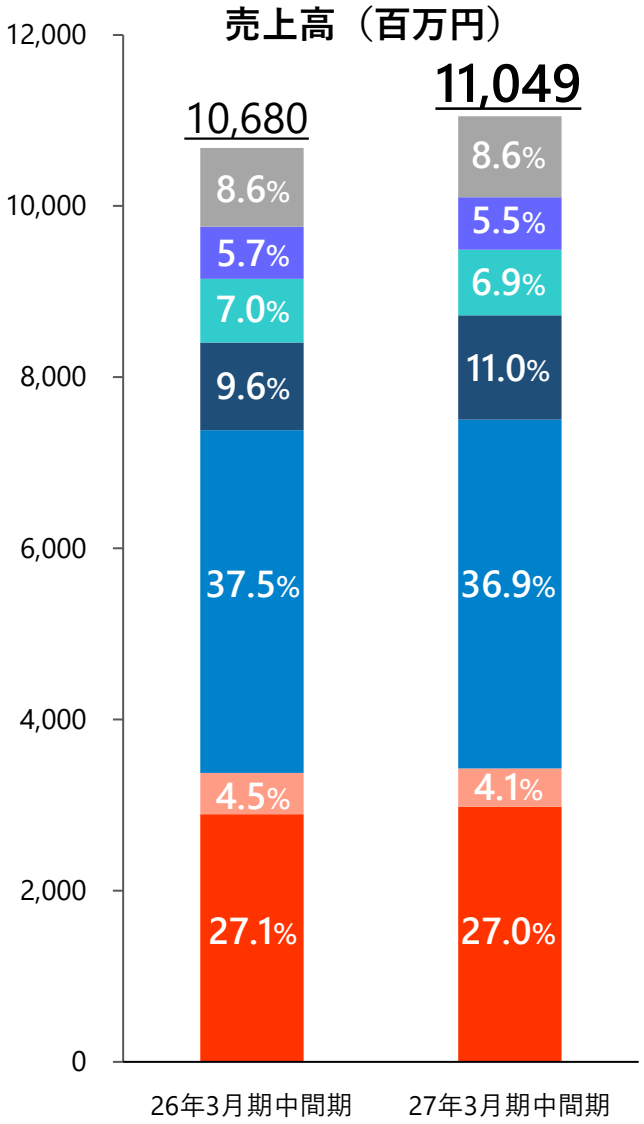
4月~12月にかけて更新工事を実施中。4月の定修コストに加え、製造ラインが１ライン停止する影響により減収減益。
計画外の要因として、日照不足や降雨が続き飲料需要が低調。エネルギーコストの増加が重なり、計画対比で営利99百万円の未達。

金属加工Seg、エンジニアリングSSegは概ね計画どおり進行。
1Qと比べ減速するも、販売動向は下期以降も堅調と想定。

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

化学品セグメント 分野別（サブセグメント）の状況

信頼と限りなき挑戦 Carlit

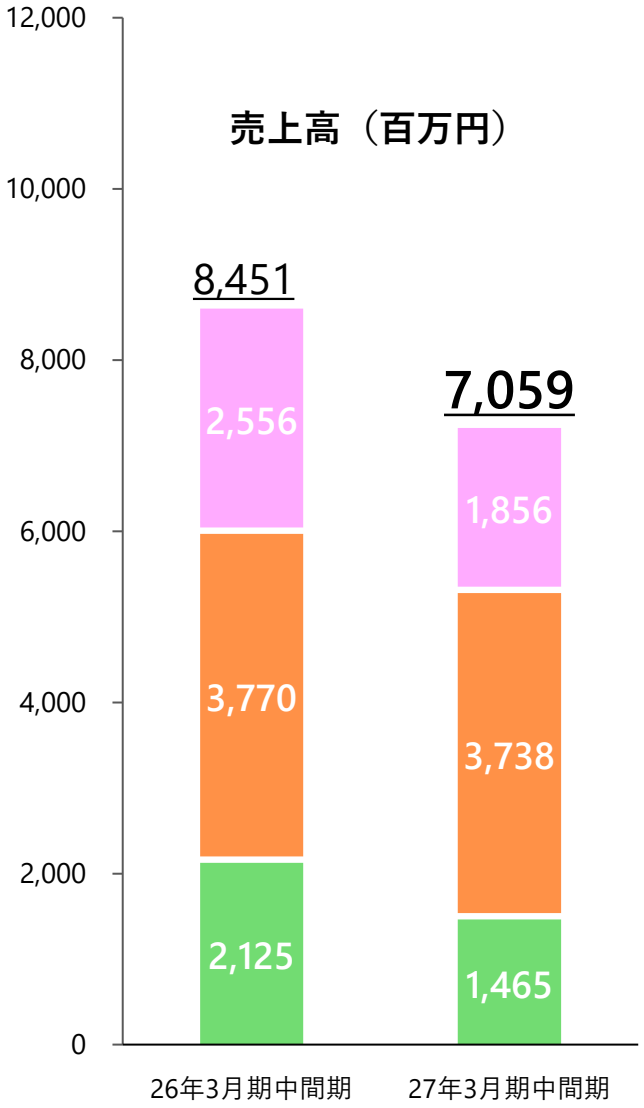


分野（サブセグメント）	売上高 増減率（前年同期比）	サブセグメント別の状況
化薬分野	＋3%	自動車用発炎筒　：自動車工場と販売店（車検）向けのどちらも販売が堅調に推移し増収。 しかし、原材料費や人件費などの生産コストの増加により減益。 高速道路用発炎筒：前年度の適正価格反映の効果に加え、事故防止や交通整理に関する需要が堅調に推移したことから、増収増益。
受託評価分野	▲7%	危険性評価試験：化学品類の危険性評価試験や大型の特別試験の受注を確保し、増収増益。 電池試験　　：EV需要の減速および一部顧客の調整の影響を受け、試験受注が減少。 加えて、設備投資の償却コストの増加により、減収減益。
化成品分野	＋2%	塩素酸ナトリウム　　：顧客の紙パルプ工場の被災により一部地域で需要が減少。 他地域向けの販売を推進するも、影響を補い切れず減収減益。 過塩素酸アンモニウム：宇宙開発用途および防衛用途需要の両方が堅調に推移。 計画どおりの販売推移となり、増収増益。
電子材料分野	＋19%	中東情勢の緊迫化にともなう石化由来原料の目詰まりにより販売損失が発生。 一方、ハイエンドサーバー向け高付加価値コンデンサ材料の販売が引き続き好調であったことに加え、電力変換機用コンデンサ材料の海外需要等が伸長したことから、増収増益。
セラミック材料分野	＋3%	金属加工用途の研削砥粒の需要が堅調に推移し増収。 原材料および生産コストの価格反映は進んでいる一方、管理コストの増加により減益。
シリコンウェーハ分野	±0%	一部顧客の需要が回復傾向にあり、第２四半期の販売は好調に推移。その結果、第１四半期の販売減少分を補い、売上高は前期比横ばい。 また、生産体制の見直しや販売価格の適正化により売上総利益が改善し、増益。

（不動産・その他）

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

基盤領域セグメントの状況



セグメント	売上高 増減率（前年同期比）	セグメント別の状況
ボトリングセグメント	▲31%	保有する３つの飲料製造ラインのうち、「ホットパックライン」の更新工事を実施中。製造ラインの１つが停止しており、減収減益。更新工事期間は第１四半期から第３四半期までとなり、ライン更新による業績影響は計画どおりに推移。 一方、8月~9月は、台風等による低温・日照不足・降雨が続き飲料需要が低調。稼働可能な製造ラインの受注・生産も計画を下回る状況。エネルギーコスト高も計画を超えており、大きく減益。
金属加工セグメント	▲1%	耐熱炉内用金物　：堅調な交換需要を背景に、いずれも計画を上回って推移。 一方、前年同期の大型工事案件の反動の影響が大きく、減収減益。 各種金属スプリングおよびプレス品：建設機械向けの金属プレス品（座金など）の需要が増えている一方、自動車向けばね座金の販売が減少傾向となり、減収減益。
エンジニアリングサービスセグメント	▲27%	建築・設備工事　：グループ内工事案件および外部受注案件がどちらも減少し、減収減益。 2026年6月末の連結子会社売却の影響を受けているが、連結業績としては影響は軽微。 塗料販売・塗装業務：中東情勢の緊迫化に起因し塗料価格が上昇する一方、塗料製品の安定供給に努め販売が増加。 加えて、塗装業務も新規案件を取り込むことにより、増収増益。 構造設計　：下水道施設の耐震診断や補強設計を中心に需要が堅調に推移し、売上高横ばい、増益。

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

本資料に記載されているカーリットグループの業績見通しの将来に関する記述は、当社が現時点において合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は見通しと大きく異なることがあり得ます

尚、業績等に影響を及ぼす可能性がある要因の内、主なものは以下の通りですが、新たな要因が発生する可能性もございます

① 世界の経済状況・社会情勢及び規制や税制等各種法規の動向
② 為替相場
③ 株式相場
④ 製品需給状況及び部材調達環境
⑤ 資金調達環境
⑥ 重要な特許の成立及び実施許諾並びに特許関連の係争等
⑦ 環境に関連する規制や問題
⑧ 製品やサービスの欠陥や瑕疵等
⑨ 訴訟その他の法的手続き
⑩ 急激な技術変化や、新技術を用いた製品の開発、製造及び市場投入時期
⑪ 事業構造改革
⑫ 情報セキュリティ
⑬ 大規模災害
⑭ テロ・戦争、感染症流行等による社会的・政治的混乱
⑮ 当社役員・大株主・関係会社等に関する重要事項説

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

信 頼 と 限 り な き 挑 戦

株式会社カーリット

無 限 の 可 能 性 を カ タ チ に

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.